職員による自己評価

A業務改善

- ・業務に関しては、日々の打合せ・会議等で確認・検討し、職員間で共有している。
- ・日常業務との兼ね合いで外部研修の確保が難しい。

B適切な支援の提供

- ・個別支援計画に基づいて支援を提供している。
- ・クラス以外からの意見も取り入れて保育運営・展開を行っている。

C関係機関との連携

- ・幼稚園保育所への巡回訪問を行い、具体的な支援の方法や情報の共有をしている。
- ・幼稚園保育所からの見学受け入れ、民間事業所向け施設見学研修会を行っている。
- ・就学先へは書面での申し送りをしている。

D保護者への説明責任等

- ・個別支援計画は面談で保護者と読み合わせ、説明・確認している。
- ・個別報告、連絡シート、電話相談等保護者に適宜情報共有を行っている。

E非常時等の対応

- ・緊急時対応は概ねできていると評価。
- ・ヒヤリハット、ケガ報告は随時行い、対策を職員間で共有している。

保護者による評価

A適切な支援の提供

- ・9割以上が適切と評価。
- ・具体的解決に向けた取り組みができていないという意見もあった。

B保護者への説明等

- ・概ね適切との評価。
- ・相談の機会は“満足”という意見の一方で、“少ない”という意見もある。
- ・懇談会や待機時間が保護者同士の連携の機会となった。

C非常時等の対応

- ・緊急時対応の説明は受けていると評価。

D満足度

- ・開始当初や活動によっては不安そうなお子さんもいるが、本人のモチベーションに繋がる工夫があり、多くのお子さんが通所を楽しみにしているという評価をいただいた。
- ・子どもの療育だけでなく、保護者同士の情報交換の場になった、新たな支援方法や特性への気づきがあったという声が聞かれた。
- ・職員の対応は丁寧だが気軽に話しにくいという意見やいつでも話せる、クラス担任以外にも困り事を共有できたという声が聞かれた。
- ・小1の6月頃まで支援があると安心との意見があった。

事業所内での分析

【共通点】

- ・子どもへの適切な支援の提供は実施されている。
- ・子どもへの支援内容が説明され、職員と保護者で確認ができている。
- ・緊急時対応の説明等は周知されている。

【相違点】

- ・保護者同士の連携について、年に3回(学期に1回)の参観懇談会、他、年に4回クラス懇談会、勉強会後のミニ懇談会を設定しているが、より一層の交流や情報共有の場を求める意見がある。
- ・職員からの支援に関する説明等は十分にされているが、保護者の意見を吸い上げる機会や話しやすい状況を設ける必要がある。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- 業務内容、支援内容共に職員間で随時情報共有・検討をし、共通認識を持って、クラスや担当に限らず全職員で運営にあたる事ができている。
- 個別支援計画は、保護者の意向や子どもの特性を踏まえて作成し、計画に沿った支援を実施している。
- 保護者とは日々の保育報告や連絡シート、電話や面談等で相談対応を行っている。

事業所の改善点

- 保護者支援、保護者同士の連携の見直し
 - ・保護者の相談事やご意見等、タイムリーに汲み取れるように、相談対応の機会や方法について周知していく。
 - ・勉強会の内容・構成について、職員間で検討、実施していく。
 - ・保護者同士が悩みを共有・話せる場、雰囲気作りを検討、実施していく。
- 職員の資質向上を図る
 - ・外部研修日を定め、計画的に研修参加の機会を確保していく。
 - ・業務内容や支援内容について、職員間での意見・情報交換の場を積極的に作っていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度も、たくさんのご支援とご協力をいただき、ありがとうございました。今回のアンケートでは、たくさんの高評価を頂いたことをとても嬉しく思います。お子様や保護者の方と丁寧に向き合い、声を聴きながら適切な支援を提供していくことの大切さについて、改めて考える機会となりました。

今後もお子様やご家族がより安心してご利用いただけるよう、頂いた評価やご意見を職員間で共有し、支援の向上に努めて参ります。お忙しい中、アンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。

事業所名： 横浜市中心部地域療育センター 児童発達支援事業所「フルール」

担当者： 児童発達支援管理責任者 千田 菜津子